

あかるいまち21

No.1249 2019年7月27日組員活動推進課 082-532-1264

	7月累計	2019年度
組員ふやし	94人	353人
出資金ふやし	1102万円	827万円
純増	115万円	353万円

子どもたちでいっぱい ~わくわくぱーてい~

7月13日(土) わくわくぱーていを開催しました。今回はいつものいきいきプラザではなく、観音公民館で開催しました。観音小学校さんに事前にチラシ配布をお願いしていたこともあり、たくさんの方にご参加いただきました。子ども19名、保護者4名、ボランティアと職員を含め総勢32名となりました!(^^)!観音公民館では初めての開催だったので不安がいっぱいでした。初めての参加がほとんどでしたが、子どもたちはすぐに打ち解け、折り紙をしたり、トランプをしたりと毎回子どもたちの適応能力には驚かされるばかりです。調理室が1階、食事は2階ということでボランティアさんたちにもご不便をおかけしましたが、「これくらい大丈夫よ!!」と…。本当に頭が下がります。



いつもありがとうございます(^_^)

開催場所については今後の課題ですが、子どもやお母さん、お父さんにとって居心地の良い場所が提供できるよう、活動をより広げていきたいと思えます。



「患者と病院と自分のため」~病院ボランティアの心がけ

7月24日(水)に第7回福島生協病院ボランティア交流会が開催されました。

参加者は15名のボランティアさんと病院職員1名、地域包括ケア部1名の17名でした。参加者の中には、ボランティアをはじめ1か月の方もおられました。「何ゆえに病院ボランティアをされるようになったのでしょうか?」の問いに対して。

「けんこうの記事を見ました。母が3月に福島生協病院で亡くなったのですが、その恩返しのおいもありませんし、夫もDM教育入院の際に、別の病気を見つけてもらったんです。今も療養中です。なのでこのボランティアをいつまで続けられるかはわからないんですけど…。何より福島生協病院が好きなんです。母親は個室に入れていただいたんですが、個室料を取られることもなく、その平等の思想が素晴らしいと思います。」という、生協の職員としてはこの上ない嬉しいお声を聞かせていただきました。

またベテランボランティアの方も、「ここに来られるというのは自分も、家族も元気という事」「患者さんをみていると色々な方がおられる。これが勉強になります」「自分が落ち込んだりしたときにボランティアに来ると元気になる」「ボランティアの心得の中に、『患者さんのため・病院のため・自分のため』と書いてあるが、今日も活動して自分のためになったなと思いつているんですよ」等など、語っていただきました。

職員として、「なんでこんなに献身的に活動ができるんだろう?」と思っていたのですが、皆さんそれぞれの活動への思い入れを語っていただき、「福島生協病院は多くの方の熱い思いで支えられているんだなあ」とあらためて感動した次第です。

